



私の一冊

守屋 正彦

『すぐわかる日本の仏教美術』

(東京美術)

〔体芸 702.1-Mo72〕



仏教美術は難解でわからない。仏像や仏画に興味があるが基礎知識があまりない。そのような学生の声に押され、また前の著作『すぐわかる日本の絵画』を読んだ方の声にも押されて、「えい、ままよ」と本来難解である仏教思想を「置いておいて」、過去の人々が造形化した心の現れ、これを表象文化として、その時代、その時代の政治、宗教、文化と結びつけ、仏教美術を通史的に書いてしまったのである。恐らくこれまでの先学の著書を見るならば、わたしのこのような著し方は美術史の上ではタブーに近い。

木下 由美子

『在宅看護論第4版』

(医歯薬出版)

〔医学 492.9-Ki46〕

昨年の4月に医学専門学群に看護・医療科学類が設置され、そこで地域看護学を担当しています。今回ご紹介する本は、地域看護学の4分野のひとつである在宅看護論のテキストです。

看護基礎教育の課程に在宅看護論が加わった

家の中に神棚があり仏壇がある国・・・日本。除夜の鐘について、初詣。

日本の仏教美術は神と共存し続けてきた歴史と文化を知ることなのである。

さて、日本の仏教美術を表象文化と考えると、そこには！とても面白い日本人の仏教美術に対する選択があった。たとえば、インドでは阿弥陀如来の遺物はほとんどないし、中国では石窟に仏像や浄土図として制作されたが、宋代以降には遺例が見られなくなる。ところが日本では平安後期の浄土思想が鎌倉時代にも受け継がれ、「南無阿弥陀仏」は誰でも知っている。そこに日本人の死生観が関係しているのではないか。仏教美術を表象文化の研究標本と考えるならば、たいへんな標本数である。文字の情報を考慮しないでも、厳然と遺物が今に存在すること自体が彼我の国々の文化の相違を明示しているのである。

仏教美術は顕教の美術と密教の美術に分類するとわかりやすい。そのものさしを本文中で示し、仏像や絵巻、曼荼羅など、「なぜこの名作がこの時代に生まれたのか」その理由を解説したつもりである。本書によって仏教美術に興味を抱く人々が「なるほど」とうなずいていただければ、書いた本人は最高に幸せである。

(もりや まさひこ 芸術学系助教授)



1997年に出版され、今回で第4版になりました。地域で病気や障害をもちながら生活する人々とその家族を看護するために、学生みなさんにこれだけは学んで欲しいことが書かれています。

看護を専攻していない人にもお勧めなのは、地域の保健・医療・福祉サービスや介護保険のしくみ、家族が病気になった時の看護や介護の方法です。在宅での看護は、看護の素人である療養者や家族が自立した生活を送るために、どのように支援していくかがポイントになるので、専門家のための特別なプログラムではなく、一般の人が行える、安全なものです。

このテキストが4版までになり、好評なのは(すでに次回は新版の案もでています)、毎年新しいデータが挿入される(著者は休めないので大変です)、すっきり見やすく読みやすい、量を増や

さず充実している、安い(金額を抑える努力をしています)、国家試験の出題基準に対応している、ワンポイントアドバイスが役に立つなどがその理由です(読後調査の回答結果です)。

そして各領域でご活躍の26名の執筆者です。本学からは松田ひとみ先生(高齢者看護学教授)にご協力をいただいております。

地域看護学のなかでも在宅看護はめまぐるしく変化しています。新しく変化する地域の保健・医療・福祉システムのなかで、看護を考えていかなければなりません。看護・医療科学類の学生だけでなく、広くみなさまに本書を読んでいただき、ご意見、ご感想をいただけるとうれしいです。このように、ご紹介できる機会を与えていただきありがとうございます。

(きのした・ゆみこ 社会医学系教授)

掲示板

借りた図書館でなくても返却できます

利用者の皆さんからの要望に応え、2月から貸出図書を取り扱った図書館以外の図書館へ返却できることにしました。これは、中央、体芸、医学、図情、大塚(東京)の各図書館を行き来して貸出を受け方が多くなったため、借りた図書館へ必ず返却する従来のルールを見直したものです。

これに伴い、返却された図書が貸し出した図書館へ戻るまでの間、この図書の検索結果には「搬送中」と表示されます。こうした図書は元の図書館に戻って「搬送中」の表示が消えてから利用できます。

ただし、元の図書館に戻るまでに日数を要します。借りた図書館に返却していただくと次の方がすぐに利用できますので、可能な限りご協力をお願いします。

なお、視聴覚資料の学内利用と、筑波キャンパス・大塚図書館間の搬送サービスで取り寄せた図

書は対象外です。こちらは従来通り借りた図書館へお返しください。

医学図書館和雑誌の保存書庫への移動について

医学図書館では、書架狭隘化に対処するため、図書館前の学生自習室を保存書庫に転用し、雑誌のバックナンバーを移動いたしました。

移動対象資料は、比較的利用頻度の少ない1980年以前の和雑誌約8,000冊です。

保存書庫は施錠されておりますが、申込みをすれば利用が可能です。

利用については、開館時間内に医学図書館メインカウンターまでお問い合わせください。